

医者から見た結婚

弘前大学医学部神経精神医学教室教授

福島 裕



●結婚するも、しないも、貴方次第です

「結婚する？しない？」は、基本的にその個人の人生の選択の問題であり、医者が口を出す筋合いのことではないように思います。そのことについて医者が発言するとすれば、病気を理由に、「結婚しない」と決めている人とか、結婚することを迷っている人のために、その人の病気が、結婚生活の上で、どのような問題をもたらすのかということを中心に啓蒙的に説明することでしょう。

もちろん、患者さんやその家族から結婚についての相談を受ければ、病気を抱えて生きてゆくその患者さんの、今後の人生に思いをめぐらしながらお話を聞くことになりますから、「病状と結婚」の問題だけでなく、いささか「親身な」話し合いになるでしょう。しかし、いくら親身な話し合いになったとしても、そこで私が話すことは、臨床経験や医学的な判断に基づく「私の意見」でありますので、最終的には、「自

分自身の判断で、結婚するか、しないかを決めて下さい」とお話することになります。

●調査の結果から

この特集では、私が医者を代表する形になっていますので、私がこれまでに患者さんの結婚問題について調べてきた結果をもとに、まず、私の個人的な意見を述べておきましょう。それは、「てんかん」と「結婚」とを特別に結びつけて考える必要はないのではないかとということ、つまり、この問題は、「てんかんをもっている自分」が、人生の選択として、結婚をどのようにとらえるか」ということであるということです。大分以前（一九七六）の調査の結果なのですが、二十歳以上の患者さん三百二十五名について、結婚している人がどれくらいいるかについて検討した結果、結婚したことのある患者さんは全体の約半分、男女では、男子患者よりも女子患者の方が結婚している割合が高いということが分かりました。そこで、この男女での違いの原

因を検討してみると、男子の場合、結婚生活の前提としての生活能力（職業）が問題になるらしいということが分かりました。つまり、男子では、「発作がある、発作が多い、知能障害がある、性格障害がある」といった臨床所見が職業に就くための支障となり、その結果、それらが間接的に結婚の問題に影響してくるようだということです。

これに対して、女子の場合は、「容姿（これは計量できないので、私の主観的判断です）がよいこと、親の経済力や社会的地位が優れていること、親が結婚に熱心で、保護的であること、など」が結婚をしやすくする条件になっていると思われ、これらの条件がよければ、発作、知能あるいは性格の面から、結婚生活は無理ではないかと思われる人でも結婚していました。ただ、このような臨床症状がある人では、折角結婚しても、離婚に至る方が多くみられたのはやむを得ないことでしょう。

●てんかん患者だから特別と云うことはない

一方、患者の職業生活について調査したところ、発作について、確かに発作は職業に影響を与える因子ではありましたが、それも絶対的な阻害因子ではなく、たとえば、高学歴者では、

発作があっても、安定した職業（公務員など）に就いている人が多いという結果が見られました。

この様な結果を総合してみると、発作の有無を軽視するわけにはゆきませんが、少なくとも、

発作の有無が結婚の阻害因子として絶対的に大きな意味を持つているとはいえないようです。

さらに、女子患者の結婚の状況も合わせて考えますと、てんかん患者の結婚といっても、本質的には、一般の健康人の結婚とそう変わりがない、といえるのではないかと思います。つまり、健康な男子の方でも、無職であったり、生活能力がなかったりすれば、結婚は難しいでしょうし、一方、よい収入があったり、安定した職業に就いていれば、より結婚の機会に恵まれるのではないのでしょうか。

逆に、良家の出の女性ということで結婚できたとしても、性格に問題のある人では、やがて離婚に終わると云うことも、ままあることではないでしょうか。

もっと一般的に云えば、たとえ、てんかんの患者さんでも、「人間的魅力あるいは有利な条件」をより多く備えていれば、結婚し易く、幸せな結婚生活を送る可能性は高くなると思われます。確かに、てんかんであるということは、マイナス要因ですが、それに優る魅力や条件を持つことによって、そのマイナス要因は大きな

障害にならなくなるであろうということです。

●何よりも人生への前向きな姿勢が大事

いろいろな理由を挙げて、「てんかんだから結婚はできない」という方がいますが、そのような方の話を聞いてみると、必ずしも「てんかん」が問題なのではなく、てんかんについての「劣等感」が問題のようだとと思われることがままあります。つまり、「てんかん」を理由としたマイナス思考から結婚が出来ないという結論を導き出しているようです。

実際、このような方は、その他の実生活面でも、何かにつけて、消極的で、自信がなく、そして、しばしば依存的であるようです。そこで、そのような方にまず求めたいことは、自分のもつ長所を伸ばし、それによって自分を高め、プライドをもって人生を送れるように心を切り替えるプラス思考への転換です。自信をもって生きることが出来るならば、さまざまな人生の選択の道が拓けてくるでしょう。人生の選択の道は一つではありません。そこで、自分にとって可能な、さまざまな選択肢の中から、自分の生き方を考え、方向を決めればよいのであって、そのような人生の選択のひとつとして「結婚」があると考えられます。

最近、若いてんかん患者、特に女性患者の結婚が増えたように思いますが、この人達の結婚相手の選び方は、以前の患者さんとは、随分変わってきたように思います。まず、自分で結婚相手を決める人が増えたということが挙げられます。また、最近の患者さんには、自分がてんかんであることをはっきり相手に告げて結婚する人が以前よりもはるかに増えたということも特徴です。このことは、ひとつには、この病気に対する世間の考え方が変わってきたということもあるでしょうが、一方では、それだけ自信をもって行動する人が増えてきたということではないかと考えています。多分、このように自信をもって行動することが出来る人は、その後の人生において、何かの困難や挫折に突き当たったとしても、きつとそれらを克服し、立ち直ってやってゆけるものと思います。

●おわりに

最後に、重ねて、私の結論をまとめますと、結婚は、人生の選択の一つであり、自信をもって結婚の道を選ぶか、どうかということが、まず問題なのであり、「結婚する、しない」ということは、その結果の現象に過ぎないということです。